

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課長 細馬 康二 電話番号 0852-22-5311

事務事業の名称	穴道湖・中海水産資源維持再生事業	
目的	(1) 対象	穴道湖・中海の漁業者
	(2) 意図	安定的な漁業生産によって経営を安定させる
事業概要	穴道湖では、シジミ、ワカサギ等の重要資源の資源管理手法の確立と維持増大を図るため、資源動態や生態を調査する。中海ではサルボウガイ、アサリ等の有用魚介類の生態を把握し、増殖手法を検討・調査する。また、両湖において水産生物に影響を及ぼす水温、塩分、溶存酸素などの水質環境を把握する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	穴道湖におけるシジミの生産金額	14.60	11.00	16.00	
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			0.00	0.00	0.00			
式・定義	達成率	達成率	73.30	100.00	123.60			%
			0.00	0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	9,857	10,862
うち一般財源 (千円)	9,857	10,862

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 穴道湖におけるヤマトシジミの資源量は高水準を維持、漁獲量は大幅に増加。（H26年：3,448トン）
- 指標となる穴道湖におけるヤマトシジミの生産金額は、平成26年で21億円が目標値（17億円）を大きく上回った。（対目標割合123.6%）
- 中海においては、サルボウガイやアサリの垂下式養殖試験を実施。サルボウガイ（H26：2.7トン）、アサリ（H26：300kg）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成18年の大雨以降減少傾向であったシジミ資源は、平成25年6月の調査では過去2番目に低い水準にまで減少。しかし、平成25年10月の調査では過去2番目に高い水準にまで急激に回復。これは、平成24年秋以降高い塩分濃度が継続し、シジミの餌となる珪藻が優占したことや漁業者による資源管理の強化の取り組みなどが大きな要因。
 ・中海においては、サルボウガイやアサリの養殖試験を実施しており、平成26年度はサルボウ2.7トンを出荷

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- シジミ漁獲量は過去の水準と比較すると依然として低い水準にあるため、更なる漁獲量の増加が必要。
- シジミの価格低迷
- 中海における有用水産生物であるサルボウガイ・アサリ資源（天然）は回復していない。

②困っている状況が発生している「原因」

- シジミ資源は、漁獲対象となる大型の貝まで成長するには2～3年程度かかり、資源の増加と漁獲量の増加はタイムラグが生じるため、引き続き資源量の高水準維持が必要。
- 価格低迷については、他産地（外国産も含め）のシジミ生産量の増加や、全国的なシジミの需要の落ち込みが関係。
- 中海においては、湖底の貧酸素化や食害などによりサルボウガイ・アサリの増殖の障害となっている。

③原因を解消するための「課題」

- シジミ資源の資源変動要因について、穴道湖の生態系とシジミ資源の関係性についてモデルを構築し、安定化のための方策の提言と実行が必要
- シジミ価格向上の取組
- 中海における二枚貝類を対象とした漁業再生のロードマップ作成

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 穴道湖については、「穴道湖保全再生協議会」が中心となって生態系モデルを構築し、シジミを含めた水産資源の安定化のための方策を提言する。
- シジミの価格向上については、穴道湖漁協が検討する販売力強化の方策を支援。
- 中海については、サルボウガイ・アサリなどの二枚貝垂下式養殖試験の経済性について精査しながら、漁業再生に向けた道筋を検討。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）